

THE UNIVERSITY OF FUKUCHIYAMA

農家民宿

A to Z



ABOUT

京都府のなかでも特に観光が弱いとされる

中丹地域(福知山、舞鶴、綾部)は

どんな旅を提案すればいいのか。

大きなヒントになると思うのが、

若い世代の旅人を国内外から集める可能性をもつ

「農家民宿」と「WWOOF^{*}」です。

※ウーフ

World Wide Opportunities on Organic Farms

有機農場で働きたいと思う人がお金を介さず、
労働力と食事&宿を交換できる世界的システム

この2つをキーワードに、

若い世代の価値観やライフスタイルの変化、

中丹地域がめざすべき新しい旅、観光の在り方を考えたくて、

実践型演習のテーマに選び、学生のみさんと旅しました。

訪問先の農家民宿の経営者のみなさんに

農家民宿の可能性をヒアリング。

そして、AtoZの手法でキーワードを出し合って生まれたのが、

この地学連携のキーワード集です。

CONTENTS

- ASO BIGOKORO
A 遊び心
- BIRD
B 鳥の鳴き声が聞こえてくる
- CHIKI
C 地域とのかかわり
- DIVERSITY
D ダイバーシティ
- EGAO
E 笑顔でむかえる
- FRIEND
F 友達増える 平和な世界への近道
- GUTS
G ガッツ
- HITO
H 人があまりいないという魅力
- INTERNATIONAL
I インターナショナル
- JIBUN SAGASHI
J 自分探し
- KIGYOKA
K 起業家
- LIGHT
L 光
- MISSION
M ミッション(使命)
- NATURAL
N ナチュラル
- OMOI
O 想いで巻き込む、動かす
- POSITIVE
P ポジティブな考え
- QUEST
Q QUEST
- ROMAN
R ロマンの自給
- SIMPLE
S シンプル
- TATAMI
T 畳
- UNIQUE
U ユニーク
- VICTORY
V 人生の勝利
- W WOOFING
W WWOOFING(ウーフィング)
- X
X 出会いの奇跡
- YOUNG PEOPLE
Y ヤングピープル
- ZOOM UP
Z 日々の暮らしにズームアップ 宝は足元に

農家民宿に行ってみて、農家民宿を経営してみて、「農家民宿とは」「農家民宿の売り」「農家民宿のこころ」をあらわすキーワードをあげてみました。

農家民宿 A to Z

A-C

A

ASO BIGOKORO

遊び心

クチュールの事業やイベントなどはすべて「やってみたら面白いんじゃない」という「遊び心」から生まれました。都会ではできないと思っていたことも、ここではすべてを可能にしてくれます。その可能性を信じて、自分がまず楽しむ。そうしないことには他人は楽しんでくれません。

K クチュール
工忠照幸

B

BIRD

鳥の鳴き声が聞こえてくる

農家民宿の周囲には緑がたくさんあり、自然の豊かさを感じることができます。そのなかから、鳥の鳴き声が響き渡って聞こえてきます。緑豊かで静かな場所から聞こえてくる鳥の鳴き声はとても美しく、心地よくなります。

Y 山下 渉

C

CHIKI

地域とのかかわり

農家民宿のある地域、どんな人が住んどるやろ?周りの人らから何て呼ばれてて、仕事や趣味はなんやろな。どういときに笑ってんやろ。関わってみたら、おもろいんちゃうか。宿に泊まって会いに行くんもアリや。ま、めんどくさい日も、ややこしいこともあるから気楽にな。

Y 雲の原っば社
吉田美奈子

D

DIVERSITY

農家民宿が増えたら、それぞれが競争しあって、いまでいうレッドオーシャンな世界になるのか、それとも個性を発揮すれば、ブルーオーシャンな世界になるか。15年ほど前からそんなことを考えてきたのですが、今回農家民宿を訪問し、すばらしい世界がここにあるとあらためて感じました。

ダイバーシティ 使命多様性 × 地域多様性

S

塩見直紀

E

EGAO

すべての農家民宿の方々は、元気で笑顔がいっぱいの民宿です。お客様も笑顔になるし、農家民宿をやっている方々も笑顔になる仕事です。

笑顔でむかえる

K

児玉健太

F

FRIEND

国内外から様々な人がやって来る。いろんな仕事・いろんな生き方・いろんな考え方・それまで知らなかったことに触れ世界が広がっていきます。お互いに共感し合うこともあり、出会いに感謝します。世界中で人々が様々な結びつきお互いの立場や境遇・歴史や文化を理解し合うことが世界平和への確かな礎になると思います。人と人を結びつける力が農家民宿にはあります。

友達増える 平和な世界への近道

A

イワンの里
秋元秀夫

G

GUTS

勇気、ガッツがあれば、何事にも挑戦できて、色んなこと挑んでいけると思います。何かをしたくて1つだけを挑戦するより、勇気を出して色んなことに挑戦すれば、視野も広がるし、周りももっと今より見えてきます。あまり感情を出さない人もガッツを出せば、色んなことにチャレンジできるし、感情表現も変わり、もっと楽しくなります。

ガッツ

M

三谷祐太

H

HITO

都会の人は農村に「人があまりいない魅力」を感じると思います。農村に人があまりいない魅力があるから農家民宿が人気であるとは思えないことだと感じています。

人があまりいないという魅力

Y

山下渉

I

INTERNATIONAL

日本の里山を、片田舎を侮ることなかれ。そこに残されている景観、文化、人の生き様は世界の旅人が時間と金を掛けてまで訪ねるほど普遍的価値を持つ。

インターナショナル

S

ふるま家
沢田さやか

J

JIBUNSA GASHI

四季の移ろいの美しい日本の農村にいて、米づくりを生業として50年、晩年は農家民泊を開所して、懸命に生きてきた。今、有形無形のすべてのご縁、恩恵に感謝しつつ、明日死んでもいいように、百まで生きてもいいように、等身大で田舎を満喫しよう。

自分探し

K

KIGYOKA

あいまいだけど、その人にしかない目標があって、それに向かってやっいて、根拠はないけれど、自信だけはあ人や、なんとなくやっていた人など、農家民泊を始めた人には、いろいろな人がいました。みんな一人ひとりに可能性があるんだなと思いました。

起業家

L

LIGHT

どの農家民宿にも共通していたのが、窓から差し込む光です。どの民宿も間取りがよく、太陽の光が部屋を明るくしてくれて、夕方まで電気がいらなくらいでした。また、周囲が田んぼや畑なので太陽の光でとても緑がきれいに見えました。

光

M

MISSION

緑、澄んだ水、おいしい空気、鳥や虫の声、川の音、星の瞬き。今、ひぐらしの声が降ってくる縁側にいて、思えば聞こえてくるものは自然の音ばかり。ひとり占めしているのはもったいなと思うほどである。持って生まれた五感を養い、豊かにしていただくためにも都市と農村の交流、安らぎの場としても、また定住に向けても力を尽くしたい思いや切。

ミッション(使命)

N

NATURAL

自分を大きく見せたり、偽ってみたり、素直になれなかったり、自分の身にたくさんのものをまどってしまっている日常。ここでは、余分なものを取り払って、ナチュラルな自分であれたら。リラックス、気楽、本来の自分ってどんなだっただろう。思い出せるかな。

ナチュラル

O

OMOI

計画に対する強い想いを持つ。それを発信して共感を得て初めて物事は動き出す。1人の力ではできない事も2人そろえば動いて、3人になれば加速する。過去現在多くの方と関わりを持ったことで今があります。これから巻き込んでいきます!そして私たちを巻き込んでください。

想いで巻き込む、動かす

S

素のまんま
芝原キヌ枝

T

玉垣克也

N

野間亮太

S

素のまんま
芝原キヌ枝

M

水田家の食卓
水田裕之

K

クチュール
工忠照幸

P

POSITIVE

世界を旅したり、1人で日本各地を旅して、自分の考え方をポジティブにして、自分にできることをやることを決めていた。農家民宿をやっている人の共通点です。

ポジティブな考え

Q

QUEST

マイクエストの名は、「家族とのびのび生きる冒険」だ。課題は、食物づくり、家の整理整頓や改修、草刈りや剪定などの周辺環境整備、自由な表現の場の確保。農家民宿は、課題をクリアし続ける中で、それらに関心のある他者と交流し、気楽に心を開く実践練習の場である。

QUEST

Y 雲の原っぱ社
吉田美奈子

R

ROMAN

農家民宿を経営されている方はみんなお米や野菜を育てているだけでなく、夢、ロマンも自給されています。夢なき世ですが、ここにくれば自然のパワーとおいしいご飯、そして夢追い人からもらえるパワーで元気になります。食と夢の「2つの自給」をみんながする時代になるといいですね。

ロマンの自給

S 塩見直紀

S

SIMPLE

今回、訪問した農家民宿は、そこに置かれる家具などは最低限のものしかなく、とてもシンプルでした。都市だったら1人でも生活できます。田舎は何をするにも、地域の支えが要り、支えがなかったら暮していけないので、その分、人のやさしさを感じられました。田舎は飾りがいらないのかもしれない。

シンプル

T 玉垣克也

T

TATAMI

農家民宿に行っても印象に残っているのが畳です。どの民宿にも畳の部屋がありました。最近の家はフローリングになってきていますが、農家民宿ではほとんどが畳の部屋でした。畳の部屋は部屋いっぱい畳の匂いがし、また、風通しもとてもよかったので、居心地よく、落ち着く雰囲気でした。

畳

N 野間亮太

U

UNIQUE

人は感情豊かな発想が大事です。考え方は人それぞれだけど、ユニークな考えは自分の気持ちも変わるし、相手の気持ちも楽になります。農家民宿先でもユニークな考えで人を迎えることで、農家民宿に来る人も楽しくなります。いつでもユニークな考えをしていれば、みんな幸せになれるかなと思いました。

ユニーク

M 三谷祐太

V

VICTORY

勝負する時には必ず勝ち負けがつけます。もちろん結果や勝ちにこだわるのほども大切なことですが、それ以前に、その結果にたどりつく前の努力が大切だと自分は思います。勝負事では勝ち負けの結果が出ますが、人生においての勝ち負けは自分で決めることだと思っています。自分がいかに人生において勝利したと思える人生を過ごすかが肝心だと思います。

人生の勝利

K 川尻一平

W

WWOOFING

基本の心は共有すること。知識や経験、生活を共にし、そして楽しい時間を一緒に過ごすこと。これは私たち人間全てが必要とする「助け合い」の心に繋がる。

S ふるま家
沢田さやか

WWOOFING (ウーフィング)

X

X

全世界で何十億人と住むこの世の中で、人と人が出会う確率は何億分の1だと思います。人と出会うことはそれだけで奇跡です。全世界でたくさん宿があるなかで、この日本の農家民宿を選び、その家族と出会い、それは大変すばらしいことだと思います。人と人のつながりをもっと意識すると、きっと犯罪も減っていくと思います。

K 川尻一平

出会いの奇跡

Y

YOUNG PEOPLE

「若者が主役」、いつの時代もそんなふうによく言われるけれど、迷いの中にいるのも事実。思索をしたり、旅に出たり。迷いの源は何？この混乱から抜け出すには？一隅を照らす小さな灯、ささやかな道標であれば。若い人たちのために。そして自分自身のためにも。

M 水田家の食卓
水田裕之

ヤングピープル

Z

ZOOM UP

無いもの探しをしていませんか？あれが欲しい、これが欲しい、もっと便利に、もっと良いものをお金さえあればなんて。自然がいっぱいの田舎で暮らしてみると、自然は驚きと感動に満ちています。そこに身を置くことが随分贅沢なことと思えてきます。身の回りにあるものを生かして丁寧に暮らしていくことが大切です。宝物は足元にいっぱいあります。それを見つけることが喜びになります。

A イワンの里
秋元秀夫

日々の暮らしにズームアップ 宝は足元に

農家民宿訪問日

2016年5月20日
・雲の原っぱ社

2016年6月3日
・ふるま家 (WWOOFホスト)

2016年7月1日
・イワンの里
・水田家の食卓 (WWOOFホスト)

2016年7月15日
・里山ゲストハウス クチュール

2016年7月22日
・素のまんま

福知山公立大学の大きな特徴である実践教育は1~4回生の全学生が、金曜日、地域に飛び出し、北近畿の現状、課題を知り、そして可能性を探っていくものです。

農家民宿AtoZ

- 発行日 2016年7月29日
- 著者 吉田美奈子(雲の原っば社)
沢田さやか(ふるま家)
秋元秀夫(イワンの里)
水田裕之(水田家の食卓)
工忠照幸(里山ゲストハウス クチュール)
芝原キヌ枝(素のまんま)
川尻一平
児玉健太
玉垣克也
野間亮太
三谷祐太
山下渉
塩見直紀
(以上、福知山公立大学)
- 発行 福知山公立大学 地域経営学部
キャリア演習I-Cクラス 2016年前期担当 塩見直紀
shiomi-naoki@fukuchiyama.ac.jp
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
Tel.0773-24-7100
<http://www.fukuchiyama.ac.jp>
- 特別協力 雲の原っば社(福知山市雲原)
ふるま家(福知山市三和)
イワンの里(綾部市上八田町)
水田家の食卓(綾部市志賀郷町)
里山ゲストハウス クチュール(綾部市五泉町)
素のまんま(綾部市五泉町)





「ふるま家」ではKBS京都のテレビ取材があり、みんなカメラを向けられ、インタビューされるという経験をしました。そのときの模様がすこしテレビで流れました。



世界を旅して、綾部の田舎に移住された工忠照幸さん夫妻。さらに人生を切り拓いていこうとされています。スケジュールにて。



イワンの里の秋元夫妻も京都市内から移住されて、開業されました。田舎に可能性を感じての積極的移住時代が来ています。



7月22日、補講で伝説の宿「素のまんま」の芝原キヌ枝さんのもとを訪ねました。この中丹地域で農家民宿の可能性を拓かれたバイオニア、まさにレジェンドです!

人はなぜ旅をするのか。

今後はどんな旅のスタイルになるのかといった、観光のこと。

高齢少子、さらなる過疎化する地域の現状のこと。

何も無いと思っていても、宝物は足もとにあること。

積極的な移住がこの地で、そして世界各地で始まっていること。

それらを現場で学びつつ、

もう1つ大事なことを学べたらと思ってきたのが、

「これからの時代をどう生きていくか」

ということを人生の先輩に学ぶことでした。

ご多忙のなか、受け入れてくださった

農家民宿のみなさまに感謝申し上げます。

たくさんの尊いお話をありがとうございました。